

KURASHIKI CENTRAL HOSPITAL

K NEWS No.30 2017.1

Close-up

医療安全への取り組み



この冊子は、倉敷中央病院をご理解いただくとともに、皆さま方とのコミュニケーションをはかるためのものです。皆さまと当院を結ぶかけはしとなるように、「Kニュース」と名付けました。

倉敷中央病院 ■患者本位の医療・全人医療・高度先進医療■

医療安全

日本では1999年、患者を取り違えての手術や間違った薬剤での点滴など「医療安全」のきっかけとなった医療事故が発生しました。それまで医療事故は「個々人の注意で防ぐもの」という見方でしたが、2000年以降は「チームや組織全体の在り方を改善しなければ防止できない」に変遷していきました。

国も医療安全について施策を講じ、2001年に厚生労働省に医療安全推進室が設置され、医療安全対策検討会議が開かれました。その後、医療安全管理の整備が進められ、2003年には特定機能病院などに医療安全管理者・部門・患者相談窓口の配置が義務化となっています。

当院でも医師や看護師、薬剤師ら多職種がそれぞれの場面で医療安全に取り組んでいます。各職種だけではなく、病院全体での横断的な取り組みも実施しています。

患者さんには、診察や処置・検査の際には、生年月日とフルネームを名乗っていただきます。処置・検査・手術・注射などを行う場合、必ず説明を行っています。説明が不十分な場合や分からないときは、医師や看護師にお聞きください。

患者さんに安心して治療や看護などを受けていただくように、日々職員一同努めています。安全な医療を受けていただくために、患者さん自身も治療への参加をお願いいたします。

CONTENTS

医療安全について 3

クローズアップ 4
医療安全への取り組み
安心、安全な医療を目指して

トピックス 8
わが街健康プロジェクト。
ー活動4年目は「大学生の卒業研究
テーマと共同開催」でスタート

インタビュー 10
呼吸器外科
主任部長 奥村 典仁
肺がん手術のはなし

ヘルシーリビング 12
消化器内科
主任部長 水野 元夫
いよいよ始まる
倉敷市胃がん内視鏡検診

院内散歩 14
ステンドグラス

QQ車 16
車椅子整備のボランティア

高校生が美和保育園で
防犯教育ボランティア

平成28年度「倉敷市建築文化賞」
最優秀賞を受賞

八神純子さんコンサート

2月

多職種が各々の専門性を生かして質の高い医療を目指す1泊2日のチーム医療研修会



4月

入職時の医療安全研修で指差し呼称する新入職員



6月

外部の医療安全の専門家による講演会を春と秋に開催

10月



8月

初期対応手順を身につける医療事故想定訓練



各部署の取り組みを報告する医療安全活動発表会

10月



医療安全への取り組み

当院では、病院を挙げて医療安全に取り組んでいます。人間は誰しもときには間違えることがありますが、ヒューマンエラーが医療事故につながらないような仕組みや、間違いに気づける仕組みを病院全体で構築し、患者さんが安心、安全な医療が受けられるよう日夜努力しています。

医療安全のための院内組織を全国に先駆けて2003年に立ち上げ、各部署には現場サイドで医療事故防止に携わる担当者を配置しています。下の表や次ページの写真は活動の一部ですが、医療安全に対する取り組みや真摯な姿勢が全国の病院の中でも有数になれるよう、職員一同で努めています。当院の活動は全国の病院から注目され、他院からの視察や問い合わせも多く受けられています。

対象者	内 容
全職員	外部の医療安全の専門家による講演会や、医療安全について重点的に取り組む医療安全週間など
新入職員全員	入職時に医療安全の研修を行い、その後も定期的に研修を継続
新任医師全員	院外の研修施設で実施する医療安全に特化した1泊2日の宿泊研修を義務付け

このように、安心、安全な医療が受けられるようさまざまな努力を重ねていますが、元来、医療は不確実なものです。患者さんは誰一人として同じではなく個々人で異なる身体的特徴があり、治療効果も人によってさまざまです。副作用や合併症はどのような治療にも起こりえることで、完全にゼロにすることは出来ません。治療の際には事前に十分な説明を行い、患者さん自身が納得した上で治療が受けられるよう心がけています。不明の点やお気づきの点があれば、遠慮なく職員に尋ねてください。

安心、安全な

医療を目指して



HQM推進室 室長
橋本 徹

昭和61年京都大学医学部卒業
日本呼吸器学会専門医、指導医
日本感染症学会専門医、指導医
インфекションコントロール
ドクター など



医療安全活動の一環として、当院では患者さんの転倒転落防止と患者誤認防止の活動を、医師・看護師・薬剤師・療法士・事務など各職種が参加して取り組んでいます。職員だけではなく、患者さんやご家族の協力なしでは防止できません。ご協力をお願いいたします。

● 転倒転落防止活動

【入院病棟】

当院の入院患者数は1日平均1000人前後で、入院中の転倒転落発生件数は月平均81件で、繰り返し転倒転落される方もおられます。場所はほとんどがベッドサイドで、排泄前後の転倒が多いです。

患者さんやご家族の中には「病院で転んでケガをするわけがない」と思われている方もいます。しかし、入院中は病気や治療・処置・投薬などに伴う身体への影響で、体力や運動機能が低下しています。普段は元気でも、起き上がって立ち上がる時にふらつく、思いがけず足に力が入らず歩行中に膝折れすることもあります。高齢者や日常的に歩行障害がある方はさらに転倒しやすい状況になります。住み慣れた家庭環境とも異なり、転倒転落の危険性がさらに高まることをご理解いただく必要があります。

入院した方全員に、転倒転落防止ビデオを見ていただきます。さらに、患者さんの状態評価や介助方法を定期的に見直しています。手術や検査の後や病棟の変更など、看護師が必要と判断した場合で、週1回以上行います。この活動は、医師、



転倒転落防止ビデオの映像の一部

看護師、薬剤師、療法士などさまざまな職種が参加して取り組んでいます。

時には安全性のため、ベッド柵やベッドの高さを調節することがあります。医療者と協働して、転倒転落を防いでいきましょう。

【外来】

外来は1日平均2800人の患者さんが訪れています。外来での転倒転落発生は月平均4人で、場所では診療科の待合室や外来玄関ホールが多いです。歩きはじめのふらつきや、立ち上がろうとして膝に力が入らず転倒する場面が目立ちます。

全職員が注意するポイントを理解して、転倒転落の危険性が高いと思われる方に注意を払い、介助ができるようにしています。また、階段・エスカレーター・段差のある場所（体重計等）は、ポスターなどを用いて注意喚起をしています。体力が低下した方、1人での移動に少しでも不安と思われた方は、家族や病院職員に付き添ってもらいましょう。職員に遠慮なく声をお掛けください。



● 患者誤認防止活動

患者誤認を防止するために、外来では「本日のご予約表」で、入院患者さんには、原則、右手手首に装着するリストバンドで患者照合をしています。「本日のご予約表」やリストバンドがない場合は、フルネームと生年月日の2つの情報を口頭で伝えていただきます。点滴や注射、採血、配薬、手術、検査、処置などのさまざまな場面で何度もお尋ねしますが、ご協力を

患者心理として、外来や検査の場面で「次は自分の順番だ」と思うと、良く似た名前でも、自分の名前が呼ばれたような気持ちになって返事をしてしまう事例も発生しています。患者誤認防止活動に取り組み、年々減少傾向ではありますが、年間110件程度は発生しているのが現状です。正しく安全

な治療を受けていただくため、ご協力をよろしくお願いいたします。

は自分の順番だ」と思うと、良く似た名前でも、自分の名前が呼ばれたような気持ちになって返事をしてしまう事例も発生しています。患者誤認防止活動に取り組み、年々減少傾向ではありますが、年間110件程度は発生しているのが現状です。正しく安全な治療を受けていただくため、ご協力をよろしくお願いいたします。





野村先生

檜垣先生



講演の詳細は、公式ホームページで確認することができます。こちらのQRコードを読み込めば、直接ページへつながりますので、ぜひご覧になってください。



状に、「年に一度はヶけんしんぐを受けましょう」と呼び掛けられました。

野村先生はがんの種類別罹患率で、女性乳がんが第一位と報告も大規模病院への通院を希望する患者さんが多い場合、苦痛を抱えている患者さんの診察までに時間がかかることも紹介。「地域連携パスなどを用い、病院とかりつけの先生が役割分担をして共同で診療、再発防止、再発の早期発見を目指している」などと述べられました。

わがプロの活動テーマ

- ① 医療機関と上手に付き合う
- ② 病気の予防と健康維持
- ③ 倉敷をもっと好きになる

「わが街健康プロジェクト。」(わがプロ)の第13回講演会が2016年11月29日、倉敷市民会館で開かれ、倉敷市を中心に約150人の市民が参加されました。

今回は通常講演とは異なり、川崎医療福祉大学・医療福祉マネジメント学部4年生・古武彩花さんの卒業研究テーマ「主婦を中心とした多くの女性が、健康診断や婦人科検診を受診し、問題



わが街健康プロジェクト。

活動4年目は「大学生の卒業研究テーマと共同開催」でスタート

があれば早めの治療を施すことで、家族が安心して過ごせる社会を目指したい」と共同企画で開催しました。臨時託児所の開設や育児相談、乳房セルフチェックを今回限定で実施し、受付などの会場の運営にも同大の学生約20人が参加しました。

2013年11月に活動が始まり、今回で4年目に突入しました。会場にはこれまでの講演会や、グループに分かれて意見交換する「サポーターズミーティング」を振り返ることができ、壁新聞を掲示しました。アンケート等で

いただいたご意見・ご質問にもお答えしておりますので、ぜひご覧になってください。

講演は、ヶけんしんぐと

乳がんの2本立て

講演は、倉敷市保健所 健康増進センター 所長 檜垣みちよ先生が「受けていますか? 年に一回カラダのメンテナンス。ヶけんしんぐ、川崎医科大学附属病院 乳腺甲状腺外科 医長 野村長久先生が「もっと知ろう、乳がんについて」と題してお話いただきました。

檜垣先生は、検診で見つかったがんは手術などの根治的治療の割合が高いことなどを紹介。どの部位でもがん検診の受診率は20%前後が大半で、精密検査の通知があっても受けていない人がいる現

わが街健康プロジェクト。

次回第14回講演会は
2017年2月17日(金) 14:00~
倉敷市民会館 大会議室2F

参加無料

講演① 「胃がん、大腸がんの予防と早期発見!
~検診で見つかる最新事例より~」
児島中央病院 健康増進センター SOPHIA 主任 楠本 舞 先生

講演② 「胃がん、大腸がんの治療について
~内視鏡治療の実際~」
チクバ外科・胃腸科・肛門科病院 理事長 竹馬 彰 先生

血糖値測定や各種相談コーナーを設けた「健やかブース」も講演会当日の13時から50分間開催しています。当院や共催病院、公民館などに配置しているチラシが申し込み用紙となっております。問い合わせはわがプロ事務局(倉敷中央病院地域医療連携室) Tel 086-422-15218)までご連絡ください。

第15回講演会は5月23日(火)の開催を予定しています。詳細は次回4月に発行するKNES 31号でお伝えします。

わがプロカウンター

参加延べ人数	2,431人
ブロンズサポーター (講演会3回参加)	210人
ゴールドサポーター (講演会6回+ミーティング2回参加)	86人

肺がん手術のはなし

呼吸器外科

主任部長

奥村 典仁

肺がんはどのような症状が出ますか？

奥村 咳やたん、倦怠感や胸痛などもありますが、これらの多くは進行期の症状で、早期はほとんど無症状です。このため、検診や他の病気で胸部X線やCTを撮影した際に偶然発見となるケースが多いです。血痰は肺がんの可能性が高いため、早めに専門医療機関を受診することをお勧めします。肺



がんの罹患率や死亡率は男性の方が高く、女性の3〜4倍です。部位別では、がんで亡くなった男性患者の第1位が肺です。罹患数と死亡数に大きな差はなく、生存率が低いがんの一つと言われています。

診断はどのように行いますか？

奥村 CTや気管支鏡を用いた検査などで肺がんかどうかを調べます。肺がんと分かれば、進行度を調べるため、全身CTやPET検査、MRIなどの検査が必要となります。進行度はⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期、Ⅳ期の4段階に分け、さらに大きさをリンパ節転移の状況によってⅣ期以外はA、Bに分類します。

治療方法は？

奥村 早期の肺がんは手術が第1選択になります。Ⅰ〜Ⅲ期の前半（ⅢA期）までに行う施設が多いです。当院ではⅢA期の患者さんに対しては、手術前に抗がん剤や放射線治療を行った上で手術を実施します。

肺がんは、指針ではがんの大きさが1センチでも肺葉一つを全部取るべきとされています。しかし、肺は再生しないので、肺活量が少ない状態で術後を過ごすことになります。そのため、大きさや場所、予想されるがんの性格から判断し、通常より肺を小さく切除する「区域切除」や「部分切除」と呼ばれる縮小手術が増えていきます。抗がん剤ですが、よく効いても

限界があり、最近話題の「免疫療法」に関しても、恩恵を受ける患者さんは限られており、そのうち重い副作用なく完治できる患者さんがどのくらいおられるかは、未だ判明していません。手術で除去できない段階になると薬物、放射線治療となりますが、完治することとはまれで、症状の緩和や延命治療となることが多いのが現状です。

区域切除について詳しく教えてください

奥村 がんが完全に切除ができずに再発すれば本末転倒なので、大きさが2センチ以下のⅠ期の肺がんで、末梢にあり悪性度が低いと予想されるがんに限定して行っています。

また、当院ではⅠ期の肺がんは

全て胸腔鏡手術で行います。ここ2〜3年ではほぼ全例「完全鏡視下手術」に移行してきています。以前は5〜6センチの皮膚切開での小開胸でしたが、現在は原則3センチの手術痕1箇所と1.5〜2センチほどの傷2箇所しか残さずに行えるようになり、患者さんの身体への負担はさらに少なくなってきています。平均入院日数も約7日です。

高齢の肺がん患者さんが増えていると聞きます

奥村 当科では80歳以上の超高齢者の肺がん患者さんにも、十分な術前の耐術能評価の下に積極的に手術を行っています。2015年は年間48人の80歳以上の患者さんに手術しました。中には狭心症や

肺気腫など重篤な並存疾患を合併している患者さんもありますが、総合病院の強みを生かして他科と密な連携の下に、安全な手術を実践しています。

早期発見のためには？

奥村 たばこは大きなリスクの一つですが、原因はそれだけではありません。年齢とともに発症率は上がります。画像診断の進歩、特にCTは非常に精度が上がりが、がんが小さな段階でも見つかることが多くなりました。費用は掛かりますが、一定の年齢になればCTを含む検診を定期的に受けることは有効だといえます。

いよいよ始まる 倉敷市胃がん内視鏡検診

消化器内科

主任部長

水野 元夫

胃がんの原因はピロリ菌

胃がんはピロリ菌という胃の中に住んでいるばい菌で起こります。



ピロリ菌が関係していない胃がんは1%にも満たないので、胃がん検診が必要な方は、ピロリ菌に感染している、または昔感染していた人たちです。

これまでの胃がん検診

これまでは、40歳になれば全員バリウム検診を年1回受けていました。ピロリ菌の感染率が、高齢の方では70%を超えていた時代はそれでよかったでしょうが、感染率が年々減少してきている現在では、胃がん検診を受ける必要の多い多くの方が、放射線をあびる検査を受けることになります。採血など簡単にピロリ菌を見つける方法があれば、不必要な検診を避けることができますが、いい方法はまだ十分に開発されていないのが

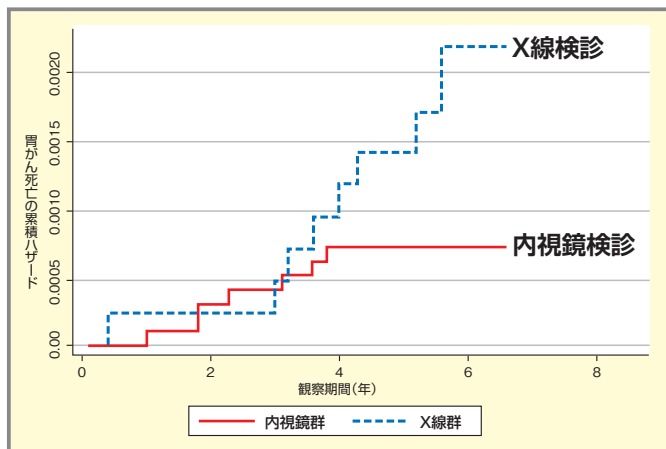
現状です。

始まる胃がん内視鏡検診

2015年、検診を内視鏡で受けている方は、バリウム検診の方より胃がんによる死亡リスクが低いというデータが示されました(図)。このような背景から、2016年2月、厚生労働省は胃がん検診を内視鏡で受けられるよう、各自治体に通達しました。50歳以上の方が対象で、内視鏡検査かバリウム検査を選べるようになりました。倉敷市でも胃がん内視鏡検診が、2017年度には始まることになっています。

ピロリ菌に感染したことがない方と、感染が疑われる方は、内視鏡検査で区別できます。ピロリ菌感染が疑われれば、その後は医療

胃がん死亡リスク



Hamashima et al., Cancer Sci 2015

胃がん検診：内視鏡検診とバリウム検診の胃がん死亡率

機関を受診して、保険診療でピロリ菌の感染診断・除菌治療を相談することになります。

苦しくない

経鼻内視鏡検査

国の指針ではお薬の副作用の心配から、内視鏡検診は鎮静剤を使用しないことが勧められています。でも、ご安心下さい。倉敷中央病院では、2017年度より、最新型の経鼻内視鏡検査が受けられるようになります。鎮静剤がないと苦しくて内視鏡を飲めなかった方でも、経鼻内視鏡で苦痛なく検査を受けられます。

経鼻内視鏡は経口内視鏡と異なり、内視鏡が舌のつけ根を通らないためスコープがのどにも触れません。そのため、検査時の吐き気や不快感、息苦しさなどが大幅に軽減できることが期待されます。胃がんの症状は胃の痛みや不快感、胸やけなどがありますが、早期での自覚症状は少なく、進行しても無症状の場合もあります。

倉敷市胃がん内視鏡検診のスタートを機会に、是非、経鼻内視鏡による苦痛のない胃がん検診を受けていただき、ご自身の胃がん危険度をチェックしてみましよう。



今回は、中央玄関入ってすぐに皆さんをお迎えしているステンドグラスをご紹介します。

上（南）側は、おだやかな瀬戸内の波間を楽しそうに飛ぶ水鳥で、これは病がいやされた喜びをあらわしています。下（北）側の深山に舞う鷹は、当院を見守る創業者・大原孫三郎、2代目理事長・總一郎父子を象徴しています。

ともに、型染染色作家で人間国宝の芹澤銈介氏（1895～1984）の作品です。晩年の新しい仕事ステンドグラスは、わが国に6点。インドに蓮弁数点しか残されていません。本院には、この2点のほか、大原記念ホールに「フローレンス・ナイチンゲール」があります。

芹澤氏にステンドグラスを、との発想は大原總一郎が倉敷の自邸西隣りの菜園に石井十次記念堂を企画し、芹澤氏に描かせたスケッチにステンドグラスがあったことから始まりました。



院内散歩

当院には温室や多数の絵画など、患者さんに心安らぐひとときを過ごしていただけるようにと、さまざまな施設・装飾が施されています。このコーナーでは数々の憩いのスポットをご紹介します。



創業者の大原孫三郎は、病院の設計理念のひとつに「病院くさくさない明るい病院」を掲げました。

倉敷中央病院には、いくつものアメニティスペースが設けられています。噴水の水音が聞こえ、明るい日差しが降りそそぐ温室。風を感じられるセントラルパーラー、そこで開催されるコンサート。心

を和ませてくれるくつろぎの空間に、多くの方が自然と集まってきます。患者さんへの優しい環境づくりは、当院にとって、大切な医療の一環です。



QQ車は、皆さまに倉敷中央病院のできごと
を運ぶ(お伝えする)コーナーです。

「知らない人に付いて行ったらだめですよ」

—高校生が美和保育園で防犯教育ボランティア

倉敷市内の高校生ボランティアと岡山県警察本部の担当者が2016年12月27日、防犯教育のボランティア活動を行うため、当院敷地内の美和保育園に来園。紙芝居などで「人が多い場所では、迷子にならないようにお父さんお母さんと手をつなぎましょう」と園児に呼び掛けました。

子どもを守る立場を体験して将来は地域のリーダーになってもらおうと、岡山県警察本部が高校生を対象に冬季休業期間中の防犯ボランティア参加を募集。この日は倉敷商業、倉敷翠松、倉敷中央の3高校から1、2年の生徒10人が参加しました。

生徒は2、3歳児の園児20人に紙芝居を披露。子どもがお店で迷子になる設定で、「迷子になったら1人で動いてはだめ。お店の人に名前を伝えましょう」「知らない人に声を掛けられたら、ついて行かずに逃げましょう」などと呼び掛けると、園児は大きな声で「はい」と応えていました。

紙芝居を朗読した倉敷商業高校2年生の浜谷海斗さんは「防犯に興味があり参加しました。外で小さな子どもが困っていたら、積極的に声を掛けて助けたいし、ボランティア活動も続けたい」と話していました。



車椅子整備のボランティア

—倉敷工業高校3年生10人が来院

岡山県立倉敷工業高等学校・機械科の生徒が2016年11月28日、車椅子整備のボランティアで来院しました。生徒は外来患者さんが使用する当院中央玄関の車椅子や手押し車に、タイヤに空気が入っているかや、ブレーキがしっかり効くかなどを確認しながら整備を行いました。

同校機械科の課題研究で2004年から毎年、校外でのボランティアを希望した3年生が来院しています。この日は3つのグループに分かれ、車椅子に座って背もたれが固定されているか、スポークが緩んでいないかなどを確認してメンテナンス。中央玄関の車椅子を整備した東隆太さんは「お年寄りの方などが利用するもの。どのように整備すれば安全かを考えながら作業しました」と振り返り、山口智矢さんは「地域の方の役に立つ仕事は、将来の夢と同じ。このような経験をこれからの人生にいかしたい」と話していました。





QQ車は、皆さまに倉敷中央病院のできごと
を運ぶ(お伝えする)コーナーです。

患者さんの力になる歌を歌いたい

ー八神純子さんコンサート

2016年12月9日、「みずいろの雨」「パープルタウン」などのヒット曲で知られる八神純子さんが来院され、当院緩和ケア病棟クレモナホールと大原記念ホールでウィンターコンサートを開催、伸びやかな歌声を届けていただきました。八神さんは「歌で患者さんに力を」と、2013年から4年連続で来院されています。



緩和ケア病棟コンサートでは、「クリスマスの飾りが素敵で、私にもクリスマスが訪れたようです」と笑顔で登場。カラオケ、ピアノ演奏に合わせ「世界で一番愛を伝えるX'mas song」「Mr.ブルー ～私の地球～」など7曲を披露。最後の曲「Smile」ではマイクなしの声を届けたいとアカペラで語りかけるように歌われ、「いつも笑顔でありたい、私の笑顔は、私の笑顔でできていると思う」と話されました。患者さんからは「元気がでた。ありがとう」と声が上がり、時には涙を流され八神さんの歌声に耳を傾けていました。

大原記念ホールに場所を移し、最初の曲「There you are」では、歌詞の一部を「倉敷のまちへ」に変えて歌われ、その他「陽だまりのあなた」「約束」「明日の風」など8曲を熱唱されました。アンコールの声に応えられ、「ポーラー・スター」を披露された後、患者さんとゆっくりと握手を交わし、大原記念ホールを後にされました。



「ポーラー・スター」を披露された後、患者さんとゆっくりと握手を交わし、大原記念ホールを後にされました。

平成28年度「倉敷市建築文化賞」 最優秀賞を受賞しました

2016年11月11日、当院の建築物が「倉敷市建築文化賞」最優秀賞を受賞しました。最優秀賞は2004年以来、長い間受賞対象がなく、12年ぶりの受賞となります。



「倉敷市建築文化賞」は、倉敷市内に完成した建築物等で、建築物としての魅力や存在感があり、まちなみへの調和と景観形成に貢献し、建築文化の水準を高めていると認められるものに対して送られる表彰制度です。

選考委員長のお話によりますと、当院は1923年に創設以来、医療拠点として市民の健康を支えながら、赤い屋根と白い建物が倉敷のまちなみに溶け込んで優しい景観を作り、また、病院の中に入ると、病院らしくない明るい雰囲気が患者さんや来院者の心を癒してきたところが高く評価されました。選定委員会では、満場一致で最優秀賞の授与が決まったそうです。

なお、この賞は、設計のUR設計と施工の藤木工務店の3者が共同で受賞しました。



授賞式では、山形院長、UR設計宇垣社長、藤木工務店伊澤常務執行役員の3者に、河田副市長より賞状が手渡されました

倉敷中央病院の役割は？

当院は地域の診療所や病院から紹介のあった緊急・重症な患者さん、救急搬送された患者さんを中心に、入院や手術など高度で専門的な医療を24時間体制で提供する急性期病院です。症状が安定されましたら、お近くの医院をご紹介させていただきます。紹介元の先生よりご依頼があれば、いつでもフォローいたします。

倉敷中央病院



地域医療機関・
救急を支える病院

かかりつけ医



専門的な検査や治療
が必要なときは
倉敷中央病院へ



病状が安定したら
かかりつけ医へ

かかりつけ医を持ちましょう

かかりつけ医を持つことは患者さんにとって大きな利点があります。かかりつけ医は当院の医師と違う視点で病気を管理することができ、十分な時間を取っての相談も可能です。入院や手術など高度で専門的な医療が必要と判断された場合、紹介状を作成されますので当院を受診してください。当院での検査や治療が終了しましたら、当院主治医からかかりつけ医に治療結果を報告しますので、かかりつけ医で継続した治療を受けていただきます。



公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構

倉敷中央病院

〒710-8602 岡山県倉敷市美和1丁目1番1号
TEL.(086)422-0210代 FAX.(086)421-3424
<http://www.kchnet.or.jp>